

令和 8 年度 弘前市総合計画審議会 議事概要（第 2 回）				
日 時	令和 8 年 7 月 29 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分			
場 所	弘前市役所 市民防災館 3 階 防災会議室及びオンライン	傍聴者	0 人	
出 席 者	委 員 (12 人)	【会場出席（11 人）】 森会長、今村委員、鴻野委員、棟方委員、吉田委員、 田澤委員、清藤委員、高橋委員、小山委員、石岡委員、 外崎委員 【オンライン出席（1 人）】 崎野委員		
	事務局 (7 人)	企画部長、企画課長、企画課参事兼課長補佐、 企画課総括主査（2 人）、企画課主査、企画課主事		
	その他			
会 議 概 要				
1 開 会				
2 議 事				
弘前市総合計画 施策の一次評価について				
○主な質疑等の内容は以下のとおり。（「・」 委員意見、「⇒」 事務局回答）				
【①がん対策の強化】				
・ 30～50 歳の若い世代は、自分は大丈夫だという感覚からなのか、受診勧奨してもなかなか受診されないという話はよく耳にする。いざ発症してしまってから慌てふためくのではなく、事前に予防していくことが重要である。30～50 歳の若い世代の受診率向上を図るため、受診しない方の特徴・要因を把握・分析し、それに応じた対策を講じていく必要があるのではないか。				
・ 幅広く受診勧奨しても受診率が上がらないようであれば、ポイントを絞ってみてはどうか。例えば、受診率の低い業界・業種に絞って対策を講じるなど。受診率が伸び悩む原因の分析を行いながら、それで成果が出るようであれば他の業界・業種に展開していければよいのではないか。				
⇒現状では、当市の受診しない方の特徴・要因の特定までは至っていないものの、検診受診者を男女比でみると、男性が女性に比べて 2～3 割ほど低い状況です。仕事の都合から受診時間が確保できない等の理由から受診につながっていないのではないかという見立てがあります。性別や各年代に適したアプローチを検討してま				

います。

【②魅力ある商業地域の形成】

- ・現在の中心市街地は、かつて商業の中心であったエリアであり、根本的に考えを変えるべきではないか。
- ・中心市街地の活性化について、弘前市には土手町以外にも良いところが多くあり、土手町にこだわらなくても良いのではないか。
- ・年齢層や世代で、中心市街地に求めるニーズが違うので、分析する必要がある。
- ・現状の中心市街地は、「商業」ではなくマンションが立地して「住居」のまちになっている。
- ・中心市街地の在り方として、新規出店を積極的に促すのではなく、人の流れを作ることができる施設をどのようにして作っていくのが重要ではないか。
- ・意見を言い、具体化のために行動するプレイヤーを見つけることが大事である。
- ・商業者だけではなく、学生をプレイヤーとして巻き込んでいただきたい。

⇒現在、本市の第3期中心市街地活性化基本計画策定に向けた検討が進められており、多様な機能が集積している弘前公園周辺、土手町地区及び弘前駅前地区を重点的に活性化を図るエリアとする予定としております。

また、各世代が中心市街地に対して求めるニーズについて、様々な場面で情報収集・分析を行い、中心市街地の活性化を図ってまいります。

【③国外への情報発信及び受入環境の整備促進】

- ・インバウンドが少ない冬季においては、観光客数を伸ばすことに固執せず、長期滞在を促したり、消費単価を増加させるような取組に重きを置いてみてはどうか。
- ・インバウンド誘客を進める上で、弘前は接客や食事の面で弱い。基本的な受入体制をもっと強化すべきではないか。
- ・台湾やシンガポールなどからの誘客も大事だが、弘前市民も訪れる「相互交流」が重要である。こちらから訪問することで、先方も再度、弘前を訪れようという気持ちになる。

⇒いただいたご意見を参考に、国外への情報発信及び受入環境の整備促進に取り組んでまいります。

【④地域防災力の強化】

- ・市内には防災行政無線が聞こえにくい地域もある。他自治体では、有事の際、ラジオを活用して全世帯に情報伝達することで成果を上げているケースもある。市民に円滑に情報伝達できる体制を構築いただきたい。

- ・町会においても、資機材の調達や非常食の確保などの日頃の備えに取り組んでいるが、定期的な支出があり、町会の財政的には大変である。こうした財源問題は自主防災組織の新規結成や安定的運営を阻害する要因となり得るため、現状をしっかりと把握した上で対応いただきたい。

⇒市では防災行政無線のほか、テレビ、コミュニティラジオ、SNS（LINE・X・フェイスブック）など様々な媒体を活用し、情報を受け取る世代等にも配慮した情報伝達策を講じているところです。必要な情報がしっかり届くよう、引き続き取り組んでまいります。

自主防災組織の新規結成については、防災資機材整備のほか、研修や訓練に係る事業費補助金を設けるなど、支援を行っているところです。

自主防災組織の新規結成・安定的運営に向けた支援については、地域の状況を把握の上、適切な方策を検討してまいります。

- ・施策が「地域防災力の強化」と「災害対策のための基盤の整備」の2つに分かれているが、地域防災計画の観点から考えると、ソフト面・ハード面の両輪で取り組むことが重要であるため、施策を1つに統合してもよいのではないかと。

⇒いただいたご意見を参考に、担当課と検討してまいります。

【⑤冬期道路環境の維持・整備】

- ・「②道路融雪施設等修繕事業」について、既存のものを修繕する事業内容だと思うが、新規の消流雪溝設置をお願いしたい。特に、市街地は雪を捨てる場所がなくて大変だと思う。

⇒いただいたご意見を担当課にお伝えします。

- ・太陽光を利用した融雪をまちづくりに取り入れることも考えられるのではないかと。

⇒いただいたご意見を参考に、雪対策については、引き続き関係部署において連携しながら取り組んでまいります。

【⑥市内の公共交通ネットワークの構築】

- ・路線バスの減便で、高齢者の移動はますます大変になっている。解決するのが難しい課題だとは思いますが、頑張ってもらいたい。

⇒いただいたご意見を参考に、持続可能な公共交通ネットワークの再構築について、引き続き取り組んでまいります。

【⑦文化財の公開・情報発信と学習等の充実】

- ・とある会合でたまたま、ねふたの起源を学ぶ機会があった。郷土のまつりや文化な

どの、起源を知れる機会があれば、市民はもっと興味・関心を持ってくれるはずである。

- ・弘前は文化財がたくさんある街であり、その歴史を伝えながら、しっかりと後世に継承していったほしい。

⇒いただいた意見を参考に、市民の方々が、郷土のまつりや文化などの起源を知れる機会を増やしていけるよう検討するとともに、引き続き、史跡見学会等を開催してまいります。

【⑧大学や学生による地域活動の推進】

- ・「大学コンソーシアム学都ひろさき」や「まちなかキャンパスプロジェクト」など、学生による地域活動の活性化の取組は非常によいと感じているが、こうした取組に一生懸命な学生ほど、大学卒業を機に、弘前を離れる傾向が強い（精一杯やりきった感から一区切りをつけて他地域に出る決断をする学生が多い）ように感じしており、この点は非常に残念である。何らかの形で「継続性」のある取組にしていければなおよいと思う。

⇒いただいたご意見を参考に、担当課と検討してまいります。